

り疵に、御手厚の御手當の上、態々送り下される
 とは、毎日の御厄介にかて、加へての厄介、何と
 も御禮の申上よりもなし、何れ參園の上監事始め
 諸先生にも、御面にかけて、篤く御禮申上げよ
 というたと申して呉れと述べ、借翌日、早朝に小
 石川水道町柴田氏の宅まで、卵の折を持参し、歸
 途幼稚園に寄り、丁寧諸保母に挨拶し、只今一
 寸昨日附添御送下された事務員の御方の宅まで、
 御挨拶に参り、極些細の卵折持参致したが、何ん
 というても御園の御規則であると申し御取り下さ
 れぬで、此上は何とも致しかたなく、實に痛み入
 りますと申し述べられたには、甲乙兩夫人かくま
 での差あるとは、抑教育によるか、或は氏なく
 して玉の輿に入りたる類にやと、一方に向ひては、
 愛敬の念に堪へぬばかりなるに、他方に向ひては

物しらぬにも程こそあれとまで、腹立たれしは、
 私の心の狭さによるは萬々なれども、交際上言語
 の大切なる、殊には婦人令嬢はじめ、人の奥様と
 なりては、言語の表でに、心の奥の見え透くこと、
 淺間しけれど、かねて御注意を請はんとするは、
 禮を失ふ業とはしれど、餘りの腹立しさまゝ、忘
 れ草ならぬ紙屑籠の底の埋草。

物いへば唇さむし秋のいせ

下女に對する同情

ふ み 子

同情のない家庭といふものはまことに冷なもの
 であります。これに反して家人相互に同情のある
 家はわたゝかい春のやうなものでありまして、同

情といふことは實に一家の平和と幸福のみなもと
でありませす。

さて其同情といふ中には主人夫婦が老父母に對
する同情もあり、夫が妻に對するのもあり、妻が
夫に對するのもあり、親が子供に對するのもあり
ませす、これ等は皆人々のよく心得て居ること
でございます。しかし茲に日本の家庭に多く缺けて
居るのは召使に對する同情でございます。

「あゝほんとは下女といふものは仕方がありませ
ん骨の折れるばかりで、いくら自分がした方が
ましかしれません。」

「ときものをさせますと糸くずばかりつけておき
ませす、洗濯をさせますとかんじんな所は一寸も
垢がおちてありません。」

「幾度同じ事をいふかしれません。」

などいふことは、屢々主婦達より聞く泣言で
ございます。諺にも人を使へば苦を使ふといふこと
もございませす。

實に彼等無教育な下女は愛が過ぎると増長し、
威が過ぎるとなつきます。まことにむづかしい
ものでございませす。

一體下女といふものはどんなに取扱つたらよい
ものでございませうか。先づ自ら働いて後率ある
といふことも必要でございませう、また、きまつ
た適當な休息と睡眠の時間を與へることも必要で
ございませう、また十分に飲食させることも必要
でございませう、また、それ相應な快樂を取らせ
ることも必要でございませう、とにかく、色々秘
訣がございませうが、つまり、大切なのは彼等に
對する同情でございます。

さて、同情をしてやるには、彼等がこれまで、
 どんな家庭で、どういふ風におほきくなつたかといふことを知つて十分考へてやらなければなりません。

そこでどんな人が下女になつて居るかとか考へて見ますと下等社會の娘とか、または田舎の百姓とか、獵師とかの娘であります。さもなければ不幸に出逢つて據なく、下女をするものもあります。ですから其品性に色々缺けた所のあるのも、尤もであります。

下女といふものはおほく斯様なものでありますから、決して一箇の相當の教育のあるものゝ様に考へてはなりません。不規律不整頓な家庭におほきくなつたものに、直に奇麗に洗濯しろ、奇麗にときものしろなど、望んでも出来ません彼等は

實に無知無能の憐むべきものでありますから、親切にだん／＼と導かなければなりません。

然るに世の中には、下女をあつかふのに同情をもつてしない主婦が澤山ありますから下女はやもすると、かげ口をいつたり、不平をならしたり、忠實にはたらかなかつたりしまして、一家の平和をさづ／＼けることがよくあります。若し主婦が自分の同情をもつて取扱ひましたならば、かういふことは決してございませぬ。して見ると、主婦が下女に對する同情といふことは只下女其のものにとつて幸福なばかりでなく、一家の平和の上からもよく必要でございします。

岩つじ折りもてぞ見るせこがきし

紅そめのいろの似たれば